



平成20年度 スカイアグリ特別企画(環境フェスタ)

【開催趣旨】

GW特別企画「スカイアグリ環境フェスタ」は、指定管理者NPO法人ふくしま飛行協会が福島市と不法投棄空からの監視活動の協定を機に実施するもので、観光地福島にあって市民がゴミのない美しい町づくりの意識向上のため実施すると共に滑走路走行を一定の制限の範囲で一般車両に開放し多面的活用を試みる。
さらに地域経済(農産物等)に来場者の経済的シャワー効果を期待し実施する。

【内容】

開催期間 : 平成20年4月27日～29日
滑走路車両走行 : 約200台(一台つつ走行)
来場者プレゼント : エコバック450 バガス紙製紙飛行機セット 3000枚
石垣・白保の海 : スライドショー 多数観賞
アクロ演技 : 大好評

【環境フェスタ】

社会の環境に対する啓発的行事が多く行われているが、行政主導のイベントが中心であり、指導的・教導的内容が主体となり、どうしても硬い感じがすることは否めない。

そこで、当協会は平成20年3月に福島市と「空からのゴミの不法投棄監視活動」の協定を締結、民間主導の環境を考えるイベントとしてGw特別企画(環境フェスタ)を企画した。一日を「環境を考える日」とし、次のように取組んだ。



スカイパーク近傍の不法投棄の現場への警告

スカイパーク近傍にはゴミ不法投棄箇所があり、実態として環境フェスタに来場する道脇で「ゴミの不法投棄(現場)」として警告を発した。

いわゆる、捨てる人がいればそれを見てモラルを高める来場者もあると、期待しての啓発である。

スカイパーク近傍の不法投棄の現場への警告イベント初日の夜間には警告板が捨てられるという事案があったが、再度、警告板を設置、その後は現状を維持しゴミは増えていない。



平成20年度 スカイアグリ特別企画(環境フェスタ)

【環境フェスタ】

問題を市民や住民が直視し、現状を真に理解すれば問題が改善されていくということであり、市民・住民の共通認識こそモラルを向上させていくと理解されるのではなかろうか。

その啓発の一環として、スカイパーク特製エコバックを先着でプレゼントをした。また、環境に優しいバガス紙で作成された紙飛行機キットもプレゼントされ、紙飛行機を作成し、公園内で楽しむ親子連れも多くいた。



エコバック・紙飛行機など多くの市民にプレゼント



石垣(白保)の海のライドショー

会場内のレストラン(Wing・Cafe)では、石垣島(白保)の海を観察した模様がライドショーで終日上映され、美しい島を残さなければならないと努力する石垣島民の皆さん心と、美しい里山福島を残したいという心を重ね合わせた企画を行った。環境を保全することは、農業の振興を担保するうえで、最も重要かつ喫緊の問題でもある。



平成20年度 スカイアグリ特別企画(環境フェスタ)

【エアロパティック・ショー】

今回の特別企画のハイライトは、室屋義秀選手の演技するエアロパティック・ショーであった。

開催数日前より、アクロ演技の時間帯を確認するための電話がスカイパーク・協会事務所・農業振興課等に頻繁(200本以上と推測)にあり人気の高さが伺える。

このような人気・地域定着度(地域から批判的意見がほとんど無く、年々参加者が増えてきている)は高まってきており多面的活用の方向性を示す活動を示唆している。



反転急上昇 このときのGは極めて大きい



低空でのナイフエッジ 機体が横に飛んでいる

このように、スカイパークに多くの市民の方々が訪れ、航空公園としての公の施設として発展するにはなんと言ってもソフトウェアの充実が、重要な要素となる。

日本では、その重要要素となるスカイスポーツはまだ小規模スポーツである。しかし、日本文化の熟度や年齢性向を考えれば戦後世代の紙飛行機・プラモデルブームの再来を期待できる大きなアイテムになってくる。

反転急上昇 このときのGは極めて大きい。



平成20年度 スカイアグリ特別企画(環境フェスタ)

【エアロパティック・ショー】



アクロバットの離陸を見守る大勢の参加者

反転急上昇 このときのGは極めて大きい
また、男性が家族を積極的に連れてくることの出来る航空公園に成長させるには、航空機関連として無線愛好家・写真愛好家・ラジコン愛好家等、関連団体とも連携が必要である。これらの団体は所属人口も多い。しかし、実機の航空機と接する機会が極端に少なく、航空公園に対する期待も大きく、日本における唯一のエアロパティックスのメッカとしての取り組みが必要。
全国のこれらの方々が競ってスカイパークを訪れ、人の交流・技の交流・文化の交流・地域との交流に発展し、さらに観光・温泉福島に連動していくように取組まなければならない。

【滑走路の車両走行(初開放)】

福島市との不法投棄監視活動の協定を期に、指定管理者として一般の市民に対し滑走路の車両走行を実施した。
滑走路は飛行機が飛ぶために建設された施設には間違いないが、多面的活用の観点から、このような利用も出来るのと言う理解を得るためにも必要と判断して実施した。
実施に当たり、「車両による安全運転誓約書」を記入していただき、「私は安全に配慮して自己責任で走行します。」との誓約をし実施した。





平成20年度 スカイアグリ特別企画(環境フェスタ)

【セスナ機体展示】



セスナ コックピット体験の順番待ち

なんと言っても、大人も子どもも楽しみにしているセスナのcockpit体験。
cockpitに乗って楽しむ子どもをカメラで記念写真。機体の前ではピースのポーズ。このような体験は実施するほうも体験するほうも楽しい企画。当協会は、「子どもの健全育成」と言うNPO活動方針の一環としての取り組み。

【遊覧ヘリコプター(有料)】

来場者が楽しみにしている遊覧ヘリコプター。ヘリコプターはスカイパークから一気に300メートル降下しながら飯坂温泉上空へ、福島市内を見学し戻ってくる。このような降下が先で上昇が後と言うのはふくしまスカイパークが高さ400メートルの山の上にあるための特徴になっている。



【美味しいもの出店】



特別協賛で出店した5店舗は、県内有数の有名うまいもの処の出店者。喜多方ラーメン・韓国料理・広島焼き・クレープ・バーガーなど何れも長蛇の列を作っていた。



平成20年度 スカイアグリ特別企画(環境フェスタ)

【行事運営の要となった福島大学清水ゼミの学生】



清水ゼミの学生の皆さん 右から7人目が清水教授

福島大学清水ゼミの学生(指導教官:清水修二教授・副学長)と、当協会はゼミの研究テーマの素材としてコラボレーションしている。ゼミ生は農道空港の歴史を背景に、今後の活用・地域農業問題・指定管理者とはなど研究している。

その中での実践研究の一環として、今回の行事にスタッフとして参加しスカイパークの活用を体験学習した。

学生は総合案内(アナウンスを含む)・会場整理・セスナ展示・車両受付・WingCafe・紙飛行機製作・先着プレゼント、全てのポジションに参加し、活躍をした。

参加した学生全員は当協会のセスナ機で地文学習(福島の里山風景の空からの見学)を行い、福島清水ゼミの学生の皆さん 右から7人目が清水教授の農業の一端を理解し、研究の素材とした。

【特別飛来:福島県防災ヘリコプター救難救助訓練 展示飛行】



この飛来は、5月4日(日)に実施され300人の市民の見守る中ヘリコプターからの降下訓練、或いは地上からの救出訓練など、日ごろの実践内容が披露された。

この訓展示飛行は昨年も同日に行われ、併せて市民に対する防災に対する意識向上活動も兼ねている。

訓練終了後、機体が一般に公開され、隊員による説明や活発な質問会などが行われ、予定時間を大幅に上回るほどの盛況であった。これらの活動をとおり、防災ヘリに対する理解が深まったことで有ろう。